

# 1 部

学習サポート

## 各種申込締切について

『試験・スクーリング情報ブック』にてご確認ください。

- ・学年暦→p. 4～5            ・通信教育部カレンダー→p. 11～13
- ・演習・実習科目関連締切等
- 社福→p. 23～25           精保→p. 26～27

## 2023年7月以降の変更・留意点

### ●レポート受付締切日の変更

9月以降のレポート受付締切日について、『試験・スクーリング情報ブック2023』 p. 10～17より変更いたします（詳細は『With162号』 p. 43～44 参照）。

（例）9月のレポート受付締切日

変更前：9月7日(木)・19日(火)→変更後：9月6日(水)・19日(火)

### ●（再掲）2023年度からの変更・留意点

『試験・スクーリング情報ブック2023』 p. 18～21をご確認ください。

## 新型コロナウイルスの5類移行に伴う対応について

5/8より新型コロナウイルス感染症が5類へ移行されたことを受け、通信教育部での各種対応は下記のとおりといたします（感染状況によって変更となる可能性があります）。

### ◆スクーリング受講について

『試験・スクーリング情報ブック2023』p. 48の【新型コロナウイルス感染防止における受講上の留意事項】（2023年2月時点）は撤廃いたしますが、下記につきましては引き続きご協力をお願いいたします。

1. 発熱など体調不良がある場合は、受講をお控え願います。
2. 入室はスクーリング開始20分前を目安にお願いします。
3. マスク着用は各自のご判断にてお願いします。授業の内容によってはマスク着用にご協力いただく場合があります。
4. せっけんでの手洗いや手指消毒、3密の回避等、各自での感染対策は引き続きお願いいたします。

### ◆提出物について、引き続きのお願い

レポート、各種申込書は、郵送での提出をお願いいたします。

### ◆学食について（仙台駅東口キャンパス）

- 1) 月曜日を除きランチ、ティータイムの営業をしています。  
※学生証の提示で、日替わりランチ200円引きなど割引があります。
- 2) スクーリング開講日に、日替わり弁当の予約を受け付けています。  
※550円（税込）、味噌汁付き。前日15時までにWeb予約（p. 45参照）。  
※スクーリング欠席時は予約キャンセルをお願いいたします。

#### ◆対面での学習相談について（仙台駅東口キャンパス）

- 1) 「学習相談申込書」を希望日の1週間前までにご提出ください（日時を調整のうえご連絡いたします）。
  - ・**メールで提出**：通信教育部ホームページよりダウンロードし、入力のうち添付ファイルにて送信（宛先 uc@tfu.ac.jp）。
  - ・**郵送で提出**：本冊子巻末の用紙に記入のうえ、返信用封筒（定形封筒 84円切手貼付・返送先明記）を同封して発送（封筒に「学習相談申込書 在中」と朱書きしてください）。
- 2) ご予約いただけるのは平日（水曜日を除く）で、下記①～⑤の時間帯に1日1回、30分以内となります。
  - ①10：00～10：30、②11：00～11：30、③14：00～14：30、④15：00～15：30、⑤16：00～16：30
- 3) 当日は学生証をご提示いただきます。
- 4) 体調不良の際は、キャンセルのうえ改めてお申し込みください。
- 5) 学習相談は講義に準ずるため、録画・録音はご遠慮いただきます。

#### ◆自習室について（仙台駅東口キャンパス）

- 1) 使用可能日：年末年始など事務室休業日を除く。
- 2) 使用時間：9～17時
- 3) 使用希望の方は、通信教育部事務室（仙台駅東口キャンパス3階）にお越しください。
- 4) 当日は学生証をご提示いただきます。
- 5) 発熱ほか体調不良の方は、入構をご遠慮ください。
- 6) 室内での食事はご遠慮ください。
- 7) 室内の書籍等は閲覧可能ですが、貸し出しはしておりません。

---

# 「そもそも」を問う

---

総合福祉学部社会福祉学科 清水 冬樹

---

## はじめに ごあいさつ

---

厳しい暑さが続いた今年の夏、我が家には受験生がいることも言い訳にしながらほとんど家族で出かけることがないままでした。とはいえ、追い込まれた子どもたちの宿題やこの原稿を書いている8月24日はいよいよ子どもたちの学校が始まる直前。涼しいクーラーが効いた自宅では、急に慌ただしくなった夏が終わろうとしています。

酷暑という言葉の意味を身をもって経験したこの夏を、みなさんはどのようにお過ごしだったでしょうか？

昨年度よりソーシャルワークの基盤と専門職（専門）や実習・演習科目を担当している清水と申します。どうぞよろしく申し上げます。

## 「そもそも」を問う

---

事務局より『With』の原稿の依頼をいただき、何を書こうか悩んだのですが、上記のタイトルとしました。それは、自戒をこめつつもレポート添削等の中で感じる一種の課題をみなさんと共有したいと考えたからです。

例えば、私が担当している授業に関わらず、いろいろな授業の中で「地域共生社会」や「多職種連携」に関わる事柄をみなさんは学んできたと思います。レポート課題等でも「地域共生社会」について説明しなさいといったものであれば、テキストやWEB上の情報を整理し説明することで、まずは問題ないかと思います。しかし、大学の授業における課題の課

され方は、○○についてあなたの考えを述べなさいといったものも多く目にしてきたかと思います。

先生方の課題に対するねらいは様々なので一概には言えませんが、少なくとも私も含めて先生方が期待しているのは、みなさんがその出来事や事象についてどう考えているのかということだと思います。となると大切になるのは、その出来事や事象を整理するだけでなく、自身の考えを明確に示すことです。ところが、ここのところレポートの添削をしていると、みなさん自身の考えや見解があまり書かれていなかったり、あるいは同じ内容のものが見受けられるようになってきました。その背景について、添削のやり取りだけなのでわかりませんが、「そもそも」を問うという作業の重要性をみなさんときちんと共有していく必要があるのではないかと感じています。

先に例で出した「地域共生社会」を再び取り上げれば、地域共生社会が目指そうとしている事柄はテキストや厚労省のHPにそれなりに詳しく書かれています。それらを読み込んでいくと、確かにそうした社会の姿は必要だとお感じになる方は多いかもしれません。しかし、なぜ「地域共生社会」が国から提示されるようになったのだろうかという「そもそも」の観点から再度見直していくと、「地域共生社会」の課題が多く見えてくることがあります。あるいは近年多様な形で言われる「多職種連携」あるいは「多機関連携」について、テキスト等では上手にそれらが実践されているように読めるものが多くあります。ですが、ジャン＝フランソワ・リオタールがいう「小さな物語<sup>\*</sup>」に見られるように、多様な生き方・考え方、価値観を持って暮らす私たちは、その違いにあるのりしるをどのようにつなぎ合わせられるのかといった、「そもそも」の課題を重ね合わせてみると、「多職種連携」あるいは「多機関連携」の課題がいくつも浮き彫りになっていきます。

私たちの社会の中で何か当たり前となってきたように思われる様々

な事柄や事象を「そもそも」という観点から整理していくと、それらの課題がだんだんと具体化していきます。こうした作業のことをあまり耳慣れないかもしれませんが、現象学における判断留保（エポケー）といいます。レポート等で私を含む先生方が期待していることは、判断留保（エポケー）しつつ、その事象や出来事の構造や経過を整理し、そこから見えてくる課題についてみなさんならどのように向き合っていくか、あるいは対峙していくかということです。テキストのように事象について整理するだけでなく、自分ごととして考えてみる。そうした課題・レポートが多く提出されることを心から期待をしています。

## おわりに

---

「そもそも」を問う。自戒を込めてと冒頭に書きました。この原稿の依頼も1ヶ月近く前にいただき、その時点できちんと準備していれば私自身も「そもそも」こんなに焦らずに済んだ。夏休みの宿題に追い込まれ焦っている我が子を横目に見ながら、焦る私は何とかここで筆をおくことができそうです。

お付き合いいただきありがとうございました。

※Lyotard, Jean François (1979) *La condition postmoderne* Les editions de monuit  
(=小林康1989『ポストモダンの条件：知社会言語ゲーム』水声社)

